

7. 教育センター

教育センターの目的は、卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動を支援・実施することである。平成22年度の本センター活動については、大学の基本方針、運営計画に基く活動として、下記事業を実施した。

1) 大学の社会貢献と広報活動の充実においては、本センターが主管している公開講座推進委員会主導のもと、大学および4附属病院の独自性、自主性を保ちつつ運営し、一般市民および地域医療者を対象として大学主催の公開講座を25回開催し、2,796人の参加者があった。開催は次のとおり。

- (1) 大学 看護学科3回、心音セミナー3回
- (2) 附属病院愛宕山みんなの健康教室（NHK放送博物館共催）3回、CPR公開講座1回
- (3) 青戸病院公開健康セミナー 2回
- (4) 第三病院公開健康セミナー 11回
- (5) 柏病院地域医療連携フォーラム 2回

その中で23回分を国の私学助成の経常費補助金を活用して実施した。

これらの取り組みについては、学内に情報の提供を広く呼びかけ公開講座の推進を図り、一般市民および地域医療者には大学の公開講座ホームページに掲載し、情報発信を行った。

また、研究成果の社会還元・普及事業として、(独)日本学術振興会の委託を受け、ひらめき☆ときめきサイエンス「なぜ、近年肥満者が増加しているのだろうか?」を臨床検査医学講座・鈴木政登教授を責任者に、7月30日6階実習室で実施し、中高生29名が参加した。

2) シミュレーション教育の改善においては、西新橋スキルス・ラボをシミュレーション教育の充実と卒前・卒後・医療従事者の利用向上を図るため、平成22年4月1日よりC棟7階に移設し、シミュレーション教育施設に改称し、教育環境をセミナー室1室と実習室8室として拡充した。これに伴い、新しい教育実践として、臨床研修医のシミュレーション教育の集合研修を2回行った。

- (1) 4月2日 1年目研修医43名 ステーション数6（救急医療、腰椎穿刺など）
 - (2) 11月27日 2年目研修医33名 ステーション数4（救急医療、CVカテ挿入、エコー実習など）
- 教育センターが主管しているスキルス・ラボ運営委員会を4月よりシミュレーション教育施設運営委員会に改称し、学部学生、研修医、看護部等がシミュレーション教育施設および機器備品貸出を利用できるようにし、診療技能教育を向上した。利用件数は、西新橋校が年間371件、国領校が年間74件であった。

3) 文部科学省平成20年度戦略的大学連携支援事業（東京慈恵会医科大学（主管）、昭和大学、東京医科大学、東邦大学の4大学間連携）「東京都内4医療系大学連携によるカリキュラム開発と地域医療者生涯学習コース提供」は福島統教授（教育センター長）が責任者として、教育センターが主管事務を担当し、4大学間連携事業を推進し、次のように取組を実施した。

- (1) 4大学責任者会議を2回開催した。
- (2) 英国セント・ジョージ大学の医学教育責任者のProf.Peter McCrorieを招聘し、11月14日～22日に外部評価を実施した。
- (3) 公開シンポジウムを11月21日に開催し、本取組の成果を発表し、意見交換を行った。
9大学 40人参加、大学1号館講堂
- (4) 本事業の成果報告書を作成し、全国医学部等に配布した。
- (5) 大学IT技術職員Staff Development (SD) プログラムの活動を行い、公開セミナー・ワークショップを5回実施した。
・5月14日「医療情報の利活用について」（4大学19名参加）

- ・ 7月23日 「大学IT職員に求められるもの」(5大学30名参加)
- ・ 9月10日 「教育IT化の光と影—山口大学の事例から—」(4大学32名参加)
- ・ 10月1日 「医学教育と大学職員」(4大学25名参加)
- ・ 11月26日 SDを振り返っての発表(4大学23名参加)

- 4) 文部科学省平成22年度大学教育・学生支援推進事業大学教育推進プログラム「学生一人ひとりを育てる学習評価システム」は福島統教授(教育センター長)を責任者として、申請し、採択された。本事業で行った主な取組は次のとおり。
- (1) 医学科総合試験をコンピュータ試験化するためのシステム開発を行い、2月14日医学科5年生101名に対して総合試験でのコンピュータ試験トライアルを実施した。
 - (2) 学生一人ひとりの学習評価を蓄積するポートフォリオを構築するため、医学科は1年次福祉体験実習、2年次重症心身障害児療養体験実習などの学外実習のレポートやフィードバック、看護学科では老年看護学実習などの臨地実習について、学生の臨地実習自己評価などを入力フォーマットとして検討した。
- 5) 生涯継続学習のための卒前・卒後教育教材の作成とeラーニングの支援を行った。eラーニングは年間31コース137回を実施した。
- (1) 医学科学生 12コース、50回(3年次症候学演習、4年次基本的臨床技能実習など)
 - (2) 看護学科学生 8コース、29回(2年次情報科学、3・4年次在宅看護学実習など)
 - (3) 看護専門学校学生 2コース、4回(1年次情報リテラシーなど)
 - (4) 卒後教育(研修医、看護師、地域医療者など)9コース、54回(鏡視下手術トレーニングなど)
- 6) 4機関合同の教育活動の支援において、本センターが主管しているテレビ会議運営委員会主導のもと、4機関を接続したテレビ会議システムを運営し、年間21回のテレビ会議システムの利用支援を行った。利用内容は大学創立130年・同窓会設立85周年合同記念行事、4病院合同リスクマネジメントシンポジウム、臨床研究講習会、成医会、大震災に伴う緊急対策会議などであった。
- 7) 地域医療を行っている医師を対象に「プライマリ・ケアのための臨床研究者育成プログラム」を松島 雅人准教授(臨床疫学研究室・教育センター・総合診療部)を責任者として実施した。
- 【1期生・受講生12名】
- (1) 講義(eラーニング):6コース 全44回
- 【2期生・受講生12名】
- (1) 講義(eラーニング):6コース 全44回
 - (2) 第4回ワークショップ 7名参加 10月10-11日 6階講堂
- 【H22年度生・受講生14名】
- (1) 講義(eラーニング):6コース 全37回
 - (2) 第1回ワークショップ 13名参加 7月17-18日 E会議室
 - (3) 第2回ワークショップ 13名参加 12月11-12日 E会議室
- 上記の講義(eラーニング)6コースは家庭医療学、EBMから始まる臨床研究、疫学臨床研究、質的研究、生物統計学コース、医療倫理と研究倫理の内容で実施した。